

# 平成31年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成31年3月14日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○4月の発生予報 (沖縄群島)

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① カンシャワタアブラムシ	やや多	↗	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② カンシャコバナナガカメムシ	並	→	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	芯枯茎率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
かんきつ (温州みかん)	① かいよう病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	② そうか病	やや多	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	寄生新梢率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ミカンハモグリガ	並	↗	寄生新梢率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	↘	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
かんきつ (タンカン)	① かいよう病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② そうか病	(発生なし)並	→	発病葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	寄生新梢率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ミカンハモグリガ	並	↗	寄生新梢率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハダニ類	並	→	寄生葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値:過去5~10年間の発生量の平均値

●例年値:過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	発生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	並	↘	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
かぼちゃ	① モザイク病	やや多	↗	媒介虫であるアブラムシ類が増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	やや多	↗	果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ハモグリバエ類	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
キャベツ	① 菌核病	(発生なし)並	→	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	② 黒腐病	(発生なし)並	→	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ コナガ	やや多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ウワバ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
レタス	① 菌核病	(発生なし)並	→	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	② 腐敗病	(発生なし)並	→	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ 軟腐病	(発生なし)並	→	今後1か月の降水量が平年並の見通しから、3月と同程度の発生量と考えられる。
	④ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
ゴーヤー (施設)	① モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス以外)	(発生なし)並	→	発病株率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	② うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 斑点病	並	↘	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	④ ワタヘリクロノメイガ	多	→	幼虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ ミナミキイロアザミウマ	並	→	葉当たり成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	⑥ タバココナジラミ	(発生なし)並	↘	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	⑦ アブラムシ類	(発生なし)並	↘	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
トマト	① 黄化葉巻病	並	↗	媒介虫であるタバココナジラミが増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ すずかび病	並	→	発病株率の例年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	④ タバココナジラミ	やや多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハモグリバエ類	多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ピーマン	① モザイク病	(発生なし)並	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	寄生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ ハダニ類	並	↗	寄生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
さやいんげん (平張)	① 菌核病	並	↘	発病株率の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	② タバココナジラミ	並	↘	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	→	成虫数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	④ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	開花期から感染が確認されているので、登録農業によるスケジュール散布を行う。
マンゴー	ナカジロフサヤガ	本島北部の病害虫防除員からの報告によると、本種が中発生であった。 幼虫を見つけ次第捕殺する。
かぼちゃ	細菌病	ほ場周辺にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
ゴーヤー	モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	灰白色斑紋病以外のウイルス病は主にアブラムシ類によって媒介される。 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出しポリ袋に入れて密閉処分する。

# 平成31年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成31年3月14日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○4月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① カンシャコバネナガカメムシ	並	↗	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ハダニ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ (2期)	① モザイク病	並	↗	媒介虫であるアブラムシ類が増加する見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	並	↗	果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ 細菌病	多	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハモグリバエ類	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑥ タバココナジラミ	並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（宮古群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
とうがん (施設)	① うどんこ病	(発生なし)並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② ミナミキイロアザミウマ	並	↗	つる先の成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハモグリバエ類	(発生なし)並	↗	寄生葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	やや多	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ ハダニ類	(発生なし)並	↗	今後1か月の気温が平年より高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	並	↗	発病葉率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	やや多	→	発病葉率の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	葉当たり成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	並	↗	成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)並	↗	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	防除員の報告によると、宮古島および多良間島で多発生が確認された。 本種は秋季に飛来した有翅虫が第一世代となり数世代にわたり増殖して、春季の大発生を引き起こす。 葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は2～3月までに初期防除を行う。 また、多発時は有翅虫が絶えず移動・分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
さとうきび	アオドウガネ(幼虫)	新植春植えの際は耕起を入念に行い、物理的防除を行う。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、果実肥大期まで登録農薬によるスケジュール散布を行う。
とうがん ゴーヤー さやいんげん	チャノホコリダニ	20℃での卵から成虫までの発育期間は13～17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・防除に努める。 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っていることが多いため、葉散は丁寧に行う。 ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。

# 平成31年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号(4月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(平成31年3月14日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平常並	ほぼ平常並

○4月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
さとうきび	① カンシャコバナナガカメムシ	やや少	↗	冬季に産み付けられた卵がふ化する時期であるため、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	多	↗	芯枯莖率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ メイチュウ類(イネヨトウ)	多	↗	芯枯莖率及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
水稻	④ スクミリングガイ	多	→	貝数の平年の発生推移から、3月と同程度の発生量と考えられる。
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	やや少	↗	成虫・幼虫数及びトラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	発生株率の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ ハダニ類	(発生なし)やや少	↗	雌成虫数の平年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
かぼちゃ	① モザイク病	やや少	↗	媒介虫であるアブラムシ類の発生量が増加する見込みから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② うどんこ病	多	↗	果実の成熟に伴い、老化葉が増加することから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	③ アブラムシ類	やや少	↗	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ ハモグリバエ類	やや多	↗	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ タバココナジラミ	やや少	↗	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。



○4月の発生予報つづき（八重山群島）

作物	病害虫名	3月の発生量 (現況)	4月の 増減傾向	増減傾向の根拠
ゴーヤー (施設)	① うどんこ病	多	↗	発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	② 斑点病	やや多	↘	発病葉率の例年の発生推移から、3月より発生量は減少すると考えられる。
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	今後1か月の気温が高い見通しから、3月より発生量は増加すると考えられる。
	④ タバココナジラミ	少	↗	成虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。
	⑤ アブラムシ類	(発生なし)やや少	↗	成虫・幼虫数の例年の発生推移から、3月より発生量は増加すると考えられる。

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

●平年値：過去5～10年間の発生量の平均値

●例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	3月上～中旬の調査の結果、石垣島における寄生率は13.4%、波照間島における寄生率は24.5%であった。 本種は秋季に飛来した有翅虫が第一世代となり、数世代にわたり増殖して春季の大発生を引き起こす。 葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は2～3月までに初期防除を行う。 また多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	出蕾・開花期から感染が確認されているので、果実肥大期まで登録農薬によるスケジュール散布を行う。
かぼちゃ	細菌病	3月中旬の調査の結果、発病葉率は37.4%（前年24.2%）であった。 ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。 降雨や強風が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。
ゴーヤー (施設)	モザイク病 (スイカ灰白色斑紋ウイルス)	3月中旬の調査の結果、発病株率は2.0%（前年7.2%）であった。 本病はミナミキイロアザミウマによって媒介されるウイルス病である。 発病株は感染源となるため見つけ次第抜き取り、施設外に持ち出し、ポリ袋に入れて密閉処分する。

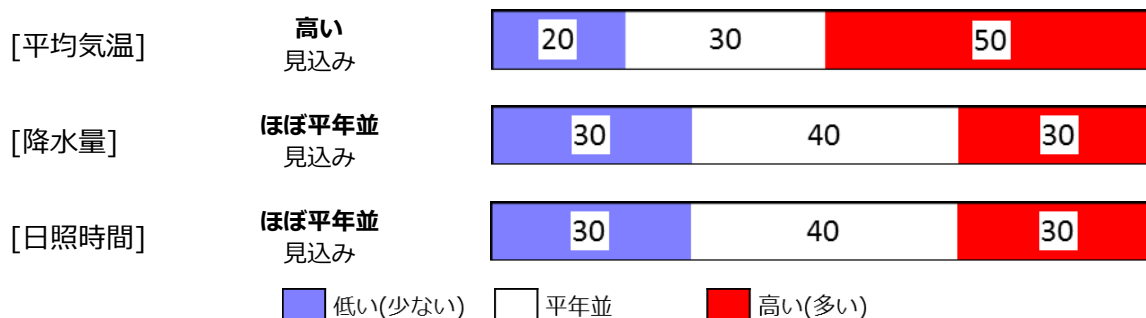
向こう1か月の天候の見通し  
 沖縄地方（3月16日～4月15日）



気象庁マスコットキャラクター  
はれるん

- 気象予報のポイント
- 向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気に覆われやすく、向こう1か月の平均気温は高いでしょう。
- 向こう1か月の降水量と日照時間は、ともにほぼ平年並でしょう。

○ 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間

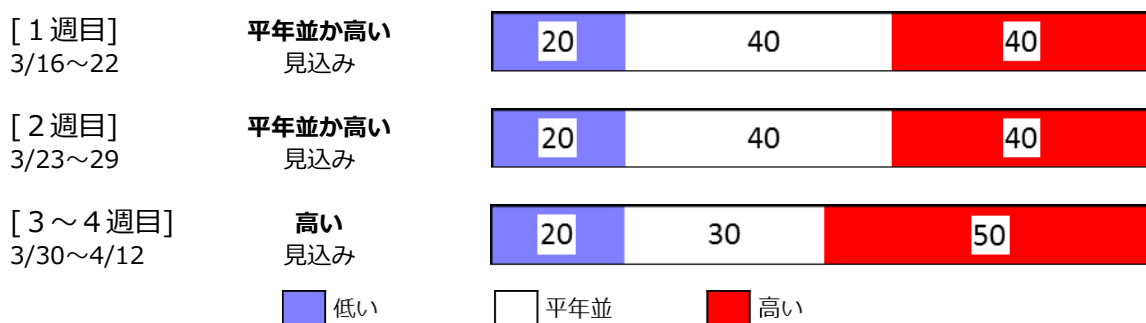


数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	平年差：-0.2～+0.2℃	平年比：82～110%	平年比：88～106%
那覇	19.8～20.4℃	114.2～177.6mm	88.8～108.3時間

○ 週別の平均気温



数値は予想される出現確率（%）です。

<平年並の範囲>

	平均気温（1週間）	平均気温（2週間）	平均気温（3～4週間）
沖縄地方	平年差：-0.3～+0.7℃	平年差：-0.5～+0.6℃	平年差：-0.4～+0.3℃
那覇	19.0～20.0℃	19.3～20.5℃	20.2～20.8℃

- ※ 沖縄地方の平年差（比）は、那覇・久米島・宮古島・石垣島・与那国島の5地点平均値です。
- ※ 平年並の範囲は、過去30年間（1981～2010年）の値から統計的に求めています。



詳しくは下記へお問い合わせ下さい



## 沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>

本 所 〒902-0072 那覇市字真地123  
TEL 098-886-3880 FAX 098-884-9119

宮古駐在 〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内)  
TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474

八重山駐在 〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内)  
TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157